

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪青山大学
設置者名	学校法人大阪青山学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
健康科学部	健康栄養学科	夜・通信	4		88	92	13	
	子ども教育学科	夜・通信			69	69	13	
	看護学科	夜・通信	4		112	116	13	
子ども教育学部	子ども教育学科	夜・通信	4		89	93	13	
		夜・通信						
(備考) 子ども教育学部子ども教育学科は、健康科学部子ども教育学科を改組し令和4年度より設置となった。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ https://www.osaka-aoyama.ac.jp/current/syllabus/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪青山大学
設置者名	学校法人大阪青山学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/List_2023.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人協和会 会長	R1. 6. 29 ~ R5. 6. 28	安全衛生
非常勤	弁護士	R1. 6. 29 ~ R5. 6. 28	法務
非常勤	無職	R1. 6. 29 ~ R5. 6. 28	労務
非常勤	東洋テック株式会社 会長	R4. 4. 1 ~ R5. 6. 28	地域連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪青山大学
設置者名	学校法人大阪青山学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画の作成過程 →シラバス作成要領に基づき、入力項目ごとに記入し、不備等がないかチェックリストにて、教員－教務課相互に確認をする。及び教務委員(各学科より選出された教員)が、シラバス作成要領やディプロマ・ポリシーに則り確認をし、修正がある場合は担当教員へ戻し修正を行う。 ・授業計画の作成・公表時期 →(前期)前年度2月に作成を依頼。3月中旬にホームページに公開している。 →(後期)8月に作成を依頼。9月中旬にホームページに公開している。 	
授業計画書の公表方法	ホームページ https://www.osaka-aoyama.ac.jp/current/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>あらかじめシラバスで明示した成績評価の方法・基準により、各学生の学修成果を厳格かつ適正に単位授与を行っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>設定:「秀・優・良・可・不可」をGP「4・3・2・1・0」に割り当てて平均値を出す。参入する科目は、本学在学中に履修した全ての授業科目とする。但し、「本学入学前に習得した科目」「他大学で修得した科目」「他大学で修得した科目及び単位互換で修得した科目」「留学等で修得した科目」「指定期間内に履修登録を取り消した科目」は対象から除外する。</p> <p>実施状況:各学期毎に配付する「成績通知書」に学期GPAと累積GPAを記載している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧及び大学ホームページ https://www.osaka-aoyama.ac.jp/current/grades/

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>具体的な内容</p> <p>ディプロマ・ポリシー (健康科学部) : 各学科の所定の単位と能力を修得し、伝統を重んじる感性と調和ある豊かな心を養い、身に付けた専門的職業人としての知識と技能を生かして誇りをもって社会に貢献しようとする学生は、卒業が認定され学位が付与される。</p> <p>ディプロマ・ポリシー (子ども教育学部) : 所定の単位と能力を修得し、伝統を重んじる感性と調和のある豊かな心を養い、身に付けた専門的職業人としての知識と技能を生かして誇りをもって社会に貢献しようとする学生は、卒業が認定され学位が授与される。</p> <p>卒業の要件及び判定の手順 : 各学科において定めた卒業に必要な単位数を修得した学生については、学長が教授会の意見を聴いたうえ、卒業を認定している。また卒業の認定を受けた学生には、学士の学位が授与される。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ホームページ https://www.osaka-aoyama.ac.jp/about/policy/#diploma</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪青山大学
設置者名	学校法人大阪青山学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法 (ホームページ)
貸借対照表	https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/2022_Financials_3-1.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/2022_Financials_1a.pdf
財産目録	https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/2022_Financials_4-1.pdf
事業報告書	https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/Repo_R4.pdf
監事による監査報告 (書)	https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/2022_Financials_repo.pdf

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 令和5年度事業計画書 対象年度: 令和5年度)
公表方法: ホームページ https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/Plan_2023.pdf
中長期計画 (名称: 第3次中期計画 対象年度: 令和3年度~令和7年度)
公表方法: ホームページ https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/04/%E7%AC%AC3%E6%AC%A1%E4%B8%AD%E6%9C%9F%E8%A8%88%E7%94%BB_compressed.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/04/assess2020new.pdf

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法: ホームページ https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/04/%E5%B9%B3%E6%88%90-29-%E5%B9%B4%E5%BA%A6-%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E6%A9%9F%E9%96%A2%E5%88%A5%E8%AA%8D%E8%A8%BC%E8%A9%95%E4%BE%A1%E3%80%80%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E6%A9%9F%E9%96%A2%E5%88%A5%E8%AA%8D%E8%A8%BC%E8%A9%95%E4%BE%A1.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法：学生便覧及び大学ホームページ） https://www.osaka-aoyama.ac.jp/about/spirit/
（概要） 学術の中心として深く真理を探究するとともに、わが国の文化と伝統に基づいた感性、知性、倫理性及び創造性を備えた個性豊かな教養人を育成し、もって広く社会に貢献することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学生便覧及び大学ホームページ） https://www.osaka-aoyama.ac.jp/about/policy/#diploma
（概要） 健康科学部：各学科の所定の単位と能力を修得し、伝統を重んじる感性と調和ある豊かな心を養い、身に付けた専門的職業人としての知識と技能を生かして誇りをもって社会に貢献しようとする学生は、卒業が認定され学位が授与される。 子ども教育学部：所定の単位と能力を修得し、伝統を重んじる感性と調和のある豊かな心を養い、身に付けた専門的職業人としての知識と技能を生かして誇りをもって社会に貢献しようとする学生は、卒業が認定され学位が授与される。
■ 健康科学部 健康栄養学科 [知識・技術] ・「人間栄養学」（広い視点から人に向かい合い、社会を見つめ、食・栄養の問題はもとより食糧の生産・流通・分配、また経済と社会の問題までも含めて体系化していく栄養学）を実践する素養を有している。 ・人々の健康の維持・増進、ならびに生活の質を高めるための栄養・食事指導ができる。 [態度・意欲] ・職業人として豊かな人間関係を作り、多様な職種の人と協調し、チーム医療などにも参画することができる。 ・栄養に関する専門的関心を持ち続け、不断に努力を積み重ねることができる。
■ 健康科学部 看護学科 ①人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在であると捉えることができる。 ②対象者と家族およびそれを支える人々に対して、看護職者としてコミュニケーションがとれる。 ③科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための知識と技術を備えている。 ④豊かな人間性と倫理的思考を身につけることができる。 ⑤看護の役割を理解し、多職種と連携・協調できる。 ⑥最新の知識と技術を継続して自ら学びを続けることができる。
■ 子ども教育学部 子ども教育学科 ①子どもに対する愛情をもち、深い子ども理解と専門的知識を有すること。 ②初等教育・保育・子ども福祉の実践に必要な資質・能力を有すること。 ③自ら課題を見つけ、主体的に問題解決に当たる省察力を有すること。 ④初等教育・保育・子ども福祉にたずさわる専門的職業人としての高い倫理観と使命感を有すること。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧及び大学ホームページ）
<https://www.osaka-aoyama.ac.jp/about/policy/#curriculum>

（概要）

健康科学部：専門的職業人となるに必要な基本的要件である本学の教育目標を達成しつつ、各々の分野にふさわしい知識・技能・態度と感性を養い、専門的知識や技能を修得するためのカリキュラム（教育課程）を編成している。

子ども教育学部：教育と福祉の接続・連携・協働に関する視点および子どもと向き合う態度と感性を養い、希望する職業に必要となる専門的知識や技能を修得するためのカリキュラム（教育課程）を編成している。

■ 健康科学部 健康栄養学科

管理栄養士としての資質を身につけ、人間栄養学の実践指導者を養成するカリキュラムを編成する。そのために、広い視野と基礎力を養う基礎教育科目、栄養学を基軸とした専門教育科目（専門基礎分野・専門分野）を配する。

■ 健康科学部 看護学科

看護学科の教育研究上の目的である「1. 人々の誕生から死までにおける健康上の様々な課題及び関連する分野を広く研究し、地域・社会に貢献すること、2. 幅広い教養を養い、人間性豊かな人格を形成し、専門的知識と技能を基盤とした看護実践ができる看護師を育成すること」を達成するために「食や保育」の視点も取り入れた授業科目を編成し、完成教育ではなく生涯学び続ける基礎的能力や生涯学習力を培うことができるよう、カリキュラムを編成している。

■ 子ども教育学部 子ども教育学科

子どもの心身の成長・発達を支えることのできる保育者・教育者の育成をめざして、基礎教育科目・専門教育科目（専門基礎分野）・専門教育科目（専門分野）の配置の下に、以下の学修と保育士の資格取得ならびに幼稚園教諭・小学校教諭の免許取得を結合したカリキュラムとする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試募集要項及び大学ホームページ）
<https://www.osaka-aoyama.ac.jp/about/policy/#admission>

（概要）

■ 健康科学部

高い志をもって努力する専門的職業人を育成するため、自立への志強く、向学心豊かで誠実に努力する人を求める。

■ 健康科学部 健康栄養学科

・食（食物と栄養）と健康に興味を持ち、この分野の知識と技術を修得するための強い目的意識を持って学修をやり通せる人

・管理栄養士の資格を取り、社会に貢献し、活躍したい人

・学修に必要な化学および生物の基礎学力を持っている人

■ 健康科学部 看護学科

看護の対象である人を理解し、看護を実践するにあたっては、他の学問の知識が基盤になる。また看護学は個々の看護職がその学問的発展を担っていかねばならない。看護実践場面では、思いやりや誠実さをもってコミュニケーションや対人関係を発展させる能力も求められる。看護学を学ぶためには、主体的に学ぶ姿勢と日々の学習習慣を身につけている必要がある。特に国語、英語、数学、理科は看護学を学習・理解するうえで基礎的能力となる。

以上を踏まえ、本学科で求めるのは以下のような人材である。

・他者と誠実に関わることができる人

・人間関係を構築し、発展させることができる人

・社会の一員としての自覚と責任感のある人

・高等学校までの学習内容を理解しており、日々の学習習慣が身につけている人

・将来、生涯にわたって自己の看護を発展させ、看護学の発展に寄与する熱意のある人

■ 子ども教育学部

高い志をもって努力する専門的職業人を育成するため、自立への志強く、向学心豊かで誠実に努力する人を求める。

■ 子ども教育学部 子ども教育学科

- ・子どもの心身の成長・発達に関心のある人
- ・保育・子ども福祉・教育のいずれかに専門職として従事しようと思う人
- ・協調とチャレンジの精神があり、粘り強く学修に取り組める人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ

<https://www.osaka-aoyama.ac.jp/faculty/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
健康科学部	—	19人	9人	13人	6人	5人	52人
子ども教育学部	—	10人	8人	2人	1人	0人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		47人					47人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページ「教員一覧」 https://www.osaka-aoyama.ac.jp/faculty/professor/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
健康科学部	160人	160人	100%	820人	722人	88.0%	20人	1人
子ども教育学部	80人	60人	75%	160人	103人	64.4%	0人	0人
合計	240人	220人	91.7%	980人	825人	84.2%	20人	1人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
健康科学部	206人 (100%)	1人 (0.7%)	200人 (97.1%)	5人 (2.2%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	206人 (100%)	1人 (0.5%)	200人 (97.1%)	5人 (2.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
健康科学部	233人 (100%)	189人 (81.1%)	9人 (3.9%)	32人 (13.7%)	3人 (1.3%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	233人 (100%)	189人 (%)	9人 (%)	32人 (%)	3人 (1.3%)
(備考) 留年者：要件単位/科目不足による留年 中途退学者：転学や就職による中途退学が多い					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画の作成過程 →シラバス作成要領に基づき、入力項目ごとに記入し、不備等がないかチェックリストにて、教員－教務課相互に確認をする。及び教務委員（各学科より選出された教員）が、シラバス作成要領やディプロマ・ポリシーに則り確認をし、修正がある場合は担当教員へ戻し修正を行う。 ・ 授業計画の作成・公表時期 →（前期）前年度2月に作成を依頼。3月中旬にホームページに公開している。 →（後期）8月に作成を依頼。9月中旬にホームページに公開している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) あらかじめシラバスで明示した成績評価の方法・基準により、各学生の学修成果を厳格かつ適正に単位授与を行っている。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
健康科学部	健康栄養学科	124 単位	有・無	単位
	子ども教育学科	124 単位	有・無	単位
	看護学科	127 単位	有・無	単位
子ども教育学部	子ども教育学科	124 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：学生便覧（教務部窓口） ホームページ https://www.osaka-aoyama.ac.jp/facility/</p>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
健康科学部	健康栄養学科	1,160,000円	230,000円	140,000円	
	子ども教育学科	1,000,000円	-円	80,000円	
	看護学科	1,300,000円	230,000円	380,000円	
子ども教育学部	子ども教育学科	1,000,000円	230,000円	80,000円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) クラス担任、チューターによる指導やオフィスアワーを設けて学生修学支援を行っている。また学内組織として「リテラシーサポートセンター」を設置し、日常的に学修支援や学修相談に対応している。リテラシーサポートセンターは各学科・部の教員から選任された運営委員に加え、専門支援アドバイザー、学生アシスタント (SA) で構成されている。教職員による個別の学修相談の他、苦手科目の克服や1年次生の学生生が円滑に進むようにSAが様々な学びと自主勉強会を企画している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・進路支援センター、保育・教職支援室、学科教員が就職活動を支援 ・学内企業説明会、就職支援セミナーを実施 ・3年次は就活塾で基礎と応用を学ぶ
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生支援センター下に「保健室」と「学生相談室」を設置し支援している。保健室には専任の保健師を配し、体調不良や怪我への対応のほか、学生からの相談も受け、必要に応じて学生相談室と連携している。学生相談室には公認心理士を配し、ますます多様化する学生の相談に応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ「事業報告書」 https://www.osaka-aoyama.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/Repo_R4.pdf

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F127310108303
学校名	大阪青山大学
設置者名	学校法人大阪青山学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		184人	173人	357人
内 訳	第Ⅰ区分	103人	113人	
	第Ⅱ区分	49人	43人	
	第Ⅲ区分	32人	17人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				357人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。